

令和6年度公共事業再評価調書

担当課名

道路整備課

番号	5																												
事業名	道路改良事業		事業主体	静岡県																									
箇所名	主要地方道 焼津榛原線		関係市町	焼津市																									
事業採択年度	令和2年度	計画期間	令和2年度～令和15年度																										
用地着手年度	令和2年度	工事着手年度	令和3年度																										
再評価理由※	事業採択(R2)後5年が経過した時点で継続中の事業																												
全体事業費	百万円 1,900	投資状況 (百万円)	～R4年度 273	R5年度 54	R6年度見込 112																								
					計 439																								
事業概要	<p>(1)事業目的 主要地方道焼津榛原線は、焼津市栄町を起点とし、牧之原市細江に至る路線であり、地域間の重要なアクセス道路となっている。 当該事業箇所は、平成30年までに4車線供用を開始した国道150号バイパスと一体となって広域的な交通ネットワークを形成する区間であり、現在2車線となっている区間を4車線に拡幅改良することにより、道路の機能強化及び地域間の連携強化を図ることを目的とする。</p> <p>(2)事業内容 施工延長： 1,870 m (街路事業区間までの460mを追加) (道路工： 1,841 m 橋梁工： 29 m (1箇所)) 計画幅員： 25.0 m (全幅)</p>																												
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・「大井川焼津藤枝SICを活かした産業拠点推進区域」における工業団地造成工事が令和4年度で完了した。 ・令和5年11月、本事業区間南西の街路事業区間の暫定2車線供用を開始した。</p> <p>(2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和6年度時点)</p> <table border="1"> <tr> <td>B/C (i=4%)</td> <td>参考:B/C (i=2%)</td> <td>参考:B/C (i=1%)</td> <td>EIRR</td> </tr> <tr> <td>5.1</td> <td>8.3</td> <td>11.2</td> <td>13.5%</td> </tr> </table> <p>・総便益 (B) 86.5 億円 (走行時間短縮便益：88.67億円、走行経費減少便益：-2.76億円、交通事故減少便益：0.58億円) ・総費用 (C) 17.1 億円 (事業費：16.41億円、維持管理費：0.70億円、用地残存価値：0.47億円)</p> <p>○見込まれる効果 (定性的な効果) ・国道150号現道から交通量が転換し、主要渋滞箇所等における渋滞が緩和されることで、周辺施設や大井川焼津藤枝SICへのアクセス性が向上し、地域内・地域間の連携が強化される。 ・歩道の整備によって、地域住民や通学児童等の安全性向上に寄与する。 ・第1次緊急輸送路に指定されている一般国道150号現道とともに、災害時の輸送路として機能することが期待される。 ・道路の4車線化(道路ネットワークの強化)によって物流が円滑化し、沿線に立地する工業団地等の産業活動に寄与する。</p> <p>(3)事業の進捗状況 (令和6年度見込み)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>進捗率</th> <th colspan="2">内 訳</th> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>23.1%</td> <td>(439 百万円</td> <td> / 1,900 百万円)</td> </tr> <tr> <td>事業量</td> <td>0.0%</td> <td>0 m</td> <td> / 1,870 m</td> </tr> <tr> <td>用地取得</td> <td>3.6%</td> <td>289 m²</td> <td> / 7,967 m²</td> </tr> </table>					B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	5.1	8.3	11.2	13.5%	区分	進捗率	内 訳		事業費	23.1%	(439 百万円	/ 1,900 百万円)	事業量	0.0%	0 m	/ 1,870 m	用地取得	3.6%	289 m ²	/ 7,967 m ²
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																										
5.1	8.3	11.2	13.5%																										
区分	進捗率	内 訳																											
事業費	23.1%	(439 百万円	/ 1,900 百万円)																										
事業量	0.0%	0 m	/ 1,870 m																										
用地取得	3.6%	289 m ²	/ 7,967 m ²																										
事業の必要性	<p>評価</p> <p>継続が妥当</p>																												
【視点2】	<p>今後の事業の進捗の見込み</p> <p>全線整備に伴う渋滞の緩和や物流の効率向上等への期待は大きく、焼津市が用地事務を受託するなど地元の協力体制が得られていることから、順調に進捗する見込みである。</p> <p>評価</p> <p>継続が妥当</p>																												
【視点3】	<p>新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性</p> <p>・活用可能な建設発生土の現場内での有効活用や他工事への流用、新技術・新工法の活用を検討するなど、コスト縮減を図っていく。 ・早期に整備効果が発現できるよう、暫定的な供用の形態を検討していく。</p>																												
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を 【 継続 】 する。</p> <p>(2)理由 本路線は、沿線に位置する工業団地等の物流を支える路線であり、一般国道150号現道の交通課題(慢性的な渋滞による道路サービスの低下)をバイパス整備により解決するとともに、緊急輸送路である現道とともに災害時の輸送路として機能することが期待される重要な路線である。 本事業は費用対効果も高く、産業の活性化だけでなく、災害時の緊急車両の通行の確保にも大きく寄与することから、事業を継続して早期完成を図る。</p>																												

費用便益比算出説明書

主要地方道焼津榛原線

(「費用便益分析マニュアル」国土交通省 道路局 都市局 令和5年12月)

総括表

総便益 B	評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費 － 評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費	8,650百万円
総費用 C	当該計画道路の建設投資額 ＋ 当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費	1,711百万円
B / C		5.06

総便益

<p>○各便益の算定 走行時間短縮便益:道路整備による走行時間の短縮を賃金率等で金銭評価 走行経費減少便益:道路整備による走行に係る経費(燃料費、タイヤ・チューブ費等)の減少を評価 走行事故減少便益:道路整備による交通事故件数の減少に伴う、事故の社会費用減少を評価</p> <p>○現在価値の算定 基準年次をR6年、社会的割引率を4%として、各便益を現在価値化する。</p> <p>○総便益の算定 供用開始年(R21年)を起算点、検討期間を50年として、各年次の便益の現在価値額を算定し、合計した額が総便益となる。</p>
<p>R22(推計年次)単年度便益 B = 走行時間短縮便益 + 走行経費減少便益 + 走行時間短縮便益 = 335百万円 + (-11百万円) + 2百万円 = 327百万円</p>
<p>検討期間全体の総便益 B = 走行時間短縮便益 + 走行経費減少便益 + 走行時間短縮便益 = 8,867百万円 + (-276百万円) + 58百万円 = 8,650百万円</p>

※ 表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

総費用

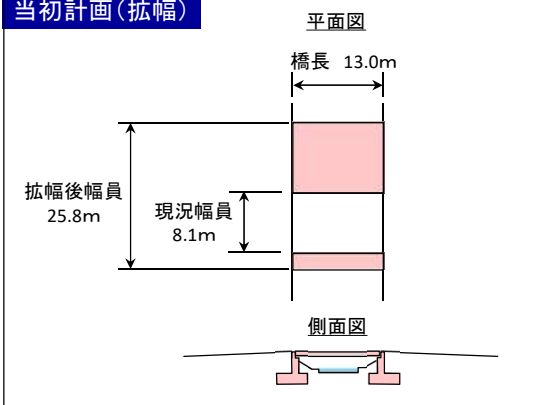
<p>○建設投資額 年度別の事業費に割引率をかけて合計する。 用地補償費については、検討期間後の残存価値として、現在価値化した価格を控除する。</p> <p>○評価期間内に必要な維持管理費 整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけて、供用後50年間を合計する。</p> <p>総費用 C = 建設投資額 + 維持管理費 = (1,688百万円 - 47百万円) + 70百万円 = 1,711百万円</p>
--

※ 表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

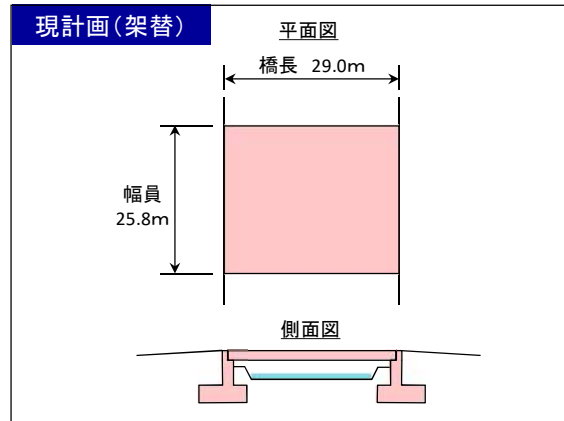
3. 前回からの変更点・理由

	採択時(R2)	今回(R6)	主な変更理由
①計画期間	R2～R11	R2～R15 (+4年)	・事業区間を延伸したため
②全体事業費	950百万円	1,900百万円 (+950百万円)	・事業区間を延伸したため ・当初拡幅を計画していた橋梁を、河川改修計画に合わせ架け替えとしたため

当初計画(拡幅)



現計画(架替)



4. 事業の投資効果 (費用便益比)

総費用(C)	1,711 [百万円]
建設投資額	1,688 [百万円]
用地残存価値(建設投資額から控除)	-47 [百万円]
維持管理費	70 [百万円]
総便益(B)	8,650 [百万円]
走行時間短縮便益	8,867 [百万円]
走行経費減少便益	-276 [百万円]
交通事故減少便益	58 [百万円]

費用便益比(B/C)	5.1
経済的内部収益率(EIRR)	13.5%

5. 事業の投資効果（交通安全）

- 歩道整備により地域住民や通学児童等の安全性向上に寄与する。



事業区間における歩道未整備の現状



5. 事業の投資効果（産業活動への寄与）

- 事業区間の整備により物流が円滑化し、産業活動の活性化に寄与する。



6. 事業の進捗状況（令和6年度末見込み）

- ・【事業費】 : 23.1%
- ・【事業量】 : 0.0%
- ・【用地取得】 : 3.6%

7. 今後の事業の進捗の見込み

- ・全線整備に伴う渋滞の緩和や物流の効率向上等への期待は大きく、焼津市が用地事務を受託するなど地元の協力体制が得られていることから、順調に進捗する見込みである。

8. 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- ・活用可能な建設発生土の現場内での有効活用や他工事への流用、新技術・新工法の活用を検討するなど、コスト縮減を図っていく。
- ・早期に整備効果が発現できるよう、暫定的な供用の形態を検討していく。

9. 対応方針（案）

- ・本路線は、沿線に位置する工業団地等の物流を支える路線であり、一般国道150号現道の交通課題（慢性的な渋滞による道路サービスの低下）をバイパス整備により解決するとともに、緊急輸送路である現道とともに災害時の輸送路として機能することが期待される重要な路線である。
- ・本事業は、産業の活性化だけでなく、周辺道路の安全性向上や、災害時の緊急車両の通行の確保にも大きく寄与する。
- ・費用便益比は「5.1」あり、「1.0」を大きく上回っている。

以上から、**事業効果が大きい。**



事業を継続し、早期完成を図る。